

## 第1回建築分野の中長期的なあり方に関する検討会 議事概要

日 時：令和8年2月19日（木）12:30～14:00

場 所：中央合同庁舎3号館 2階 住宅局局議室・オンライン併用

### 1. 開会

### 2. 国土交通省 挨拶

### 3. 建築分野の中長期的なあり方に関する検討会の設置について

### 4. 議事

#### （1）建築分野の中長期的なビジョン（仮称）の検討の進め方について

特に質疑なし

#### （2）作業WGの設置（案）について

##### <検討の方向性について>

- 法定耐用年数が過ぎると建築の価値がなくなるという現在の会計・税制上の考えから一歩踏み出して、建築を社会資本としてとらえることが重要である。人材不足も深刻で、人づくりや DX 活用だけでなく、建築を使いこなすための技術などを検討会や WG で議論されることを期待している。
- 短期間で、住宅局に留まらない議論をしていくので、検討会としてどのようなまとめ方をするか、イメージを共有しながら議論を進めていきたい。ビジョンの素案を作成して終わりではなく、様々な方に継続的に考えてもらうための投げかけを含んだまとめ方がとす必要があるのではないかと。
- 建築分野の中長期的なあり方に関する懇談会は、幅広く課題を共有する場であり、本検討会は、その課題を絞りこむことが目的と認識しているが、本検討会の2つの目的である「早急に取り組むべき課題とその対応策」「中長期的に取り組むべき課題とその方向性」のどちらに軸足を置いて議論すべきか。  
⇒まずは、短期的又は中長期に取り組むべき内容を仕分けた上で、議論していただくことを想定している。どちらに軸足を置くかは、WG や課題ごとに異なると考えられるが、例えば、法改正につながるような項目に関する議論は、ビジョン策定後に行うことを想定している。
- 各 WG とも、全国的な課題と地域的な視点がある。大都市の議論と地域的な議論、あるいはそのグラデーションも意識した議論が必要。

##### <各WGでの検討について>

#### ①ストックWG

- ストック WG の資料では、使う⇔改修する⇔取引するとあるが、「取引する」という表現ではなく、もっと広く大きなことを指す言葉の方が適切ではないかと。ここがしっくりくると様々な人が建築の使いこなし方を想像できる気がする。

#### ②担い手WG

- 担い手 WG の対象について、建築生産の時間軸にどこまで入れるか、生産に関わる人

をどこまで入れるのか。使いこなす担い手と建築生産の担い手の用語の定義を明確にして議論を進めたほうが良いのではないかと。

⇒「建築生産」の定義としては、設計など狭義の建築生産だけでなく、行政と産業という意味合いであり、設計や生産、維持管理・解体まで生産に含めて議論していただくことになると思う。

### ③DX WG

- DX分野は、課題を特定するのではなく課題の解決策の可能性を提供することが大きい。各WGが横連携して、なるべく早い段階で各WGの持っている課題感を把握して、それに沿ったDXの方向性を議論すべき。
- 建築基準法とDX化を照らして考える難しさを感じている。建築基準法や関係法令のあり方を議論する場を組んでいただきたい。

### ④市街地WG

- これまでの集団規定の議論では、現行の集団規定の現状を踏まえた、あい路や課題を中心に目指す市街地環境を実現するための政策体系を議論してきたが、今後は市街地が社会に果たすべき役割や目指すべき市街地像等を重点的に議論する必要がある。
- 都市システムをアップデートする需要と、伝統的な雑居ビルや密集市街地が近接することで相互補完的に価値を持つ面もあり、それを両立させる市街地像の考え方や、共存させる仕組みがどうあるべきかを議論することもありうる。また、開発に際して地域貢献・公共貢献を新たな視点で評価する事例を踏まえてあり方を考えていきたい。さらには、地域林業や生産システムを再構築して、地域の仕組みや循環により従来型のプレハブ供給から木造の応急仮設住宅や災害公営住宅とした過去の実績から、住宅政策の延長だけでない地域独自の地場産材・建築生産システムと担い手、それに基づいて市街地を構成する方法論を考える価値があると思っている。

### ＜各WG間の連携について＞

- 各WGでの検討が相互に関連してくるため、WG間の相互関係についても議論すべき段階が必要である。また、全体の進め方において、どの段階でその議論をするかの調整も必要である。
- 各WGの役割分担を明確にした方がよい。特に、建築物を使いこなす担い手について、ストックWGと担い手WGのどちらで議論するか、又はいずれのWGでも議論するのか。  
⇒WG相互の調整は重要であり、事務局の担当者同士の調整を行うほか、WG主査同士で議論する場を設けることも考えており、横連携のあり方は柔軟かつ密に行わせていただきたい。
- 市街地WGの議論も、他のWGの議論が密接に絡み合うための密接な情報交換が重要。例えば市街地は単体でなく集合体で考えないとストックの生み出しが難しいので、ストック活用も市街地の一部として考える必要がある。

### (3) その他（建築分野の中長期的なあり方に関する連続シンポジウム 実施計画案について）

- DX分野のシンポジウムで働きかけてほしいことは、技術的に可能かということだけでなく、社会規範としてどのように受け入れていくかという点。技術的な進歩よりも社会が受

け入れていく醸成の方がネックになっていくと思うので、シンポジウムの役割として、社会に呼びかける、AI をどこまで使うか社会的な議論を深めるためのシンポジウムにしていきたい。

## 5. 閉会

以 上